

令和 5 年度

第 2 回学校運営協議会

第 2 回 学校関係者評価委員会資料

学校評価 教員中間アンケートの結果より

期間:9 月 19 日(火)～ 9 月 22 日(金)

対象:教員 11 名

形式:質問紙調査による調査(4 件法)

項目:「知…確かな学力」

「徳…豊かな心」

「体…たくましい心身の育成」の 3 項目



令和 5 年 10 月 27 日

生駒市立生駒北小学校

R5年度 学校評価 自己評価

名前 ()

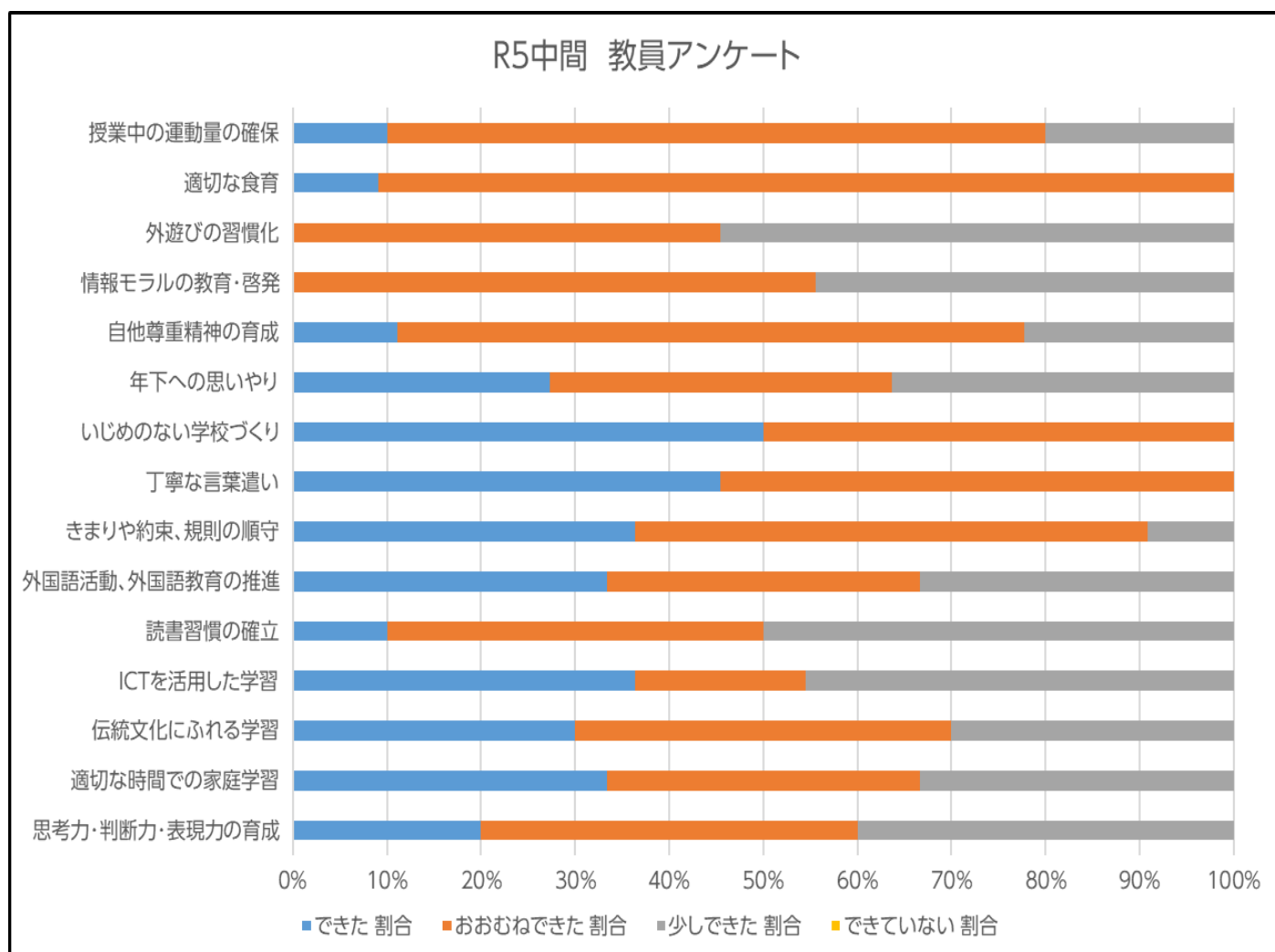
評価指数

4) できた 3) 概ねできた 2) 少しできた 1) できていない

重点目標・重点課題			達成目標・評価指数	評価
県	生駒市	本校		
知： 確かな学力の育成	①課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現 ②地域と連携した協働活動の充実 ③グローバル時代に対応した英語教育の推進 ⑦読書活動の充実	思考力・判断力・表現力の育成	授業中は、自らの意見と比較しながら他者の意見を集中して聞き、進んで意見を述べることでお互いの意見や考えを共有するよう児童に指導した。	
		適切な時間での家庭学習	トライウィークの期間中、学年ごとの目安となる学習時間を提示するなど、児童や家庭へ家庭学習の充実を促した。	
		伝統文化に触れる学習	茶道・作法教室で学ぶ意味や、地域の伝統文化や文化財、和の文化やしきたりについて児童が興味を持てるような取組を行った。	
		ICTを活用した学習	電子黒板やタブレット端末を使った授業を日常的に行い、タブレット端末を活用した個別学習を実現した。	
		読書習慣の確立	児童に家庭でも読書する習慣を身につけさせるために、学校図書館を活用して読書への興味関心を持たせた。	
		外国語活動、外国語教育の推進	ALTなどと協力して主体的・対話的で楽しい授業を展開し、児童に英語や外国文化に興味・関心を持たせ、進んでコミュニケーションをとるように指導した。	
徳： 豊かな人間性の育成	④規範意識や情報モラルについて主体的に考える道徳教育の充実 ⑤自尊感情の醸成 ⑥全ての児童の心の居場所づくり ⑧幼稚園・保育園・こども園との接続ならびに中学校との連携	きまりや約束、規則の順守	学校生活を通じて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることの意味を理解させた。	
		丁寧な言葉遣い	相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導した。	
		いじめのない学校づくり	人を傷つける言葉や人を力づける言葉について各学期に授業を行い、児童にいじめについての指導を行った。	
		年下への思いやり	異学年交流を通じて、児童に年下の子を思いやる心を育んだ。	
		自他尊重精神の育成	学級活動や道徳の時間を通じて、児童に自他を尊重する意識を持たせた。	
		情報モラルの教育・啓発	自他の人権を守るために、正しく情報機器を利用することの必要性を児童に指導し、家庭に啓発した。	
体： たくましい心身の育成	⑨健康でたくましい体づくり	外遊びの習慣化	児童に外遊びをすすめたり、一緒に遊んだりして、児童が外で元気に遊ぶように環境を整備した。	
		適切な食育	学活や保健、給食指導を通じて、児童に正しい食生活のあり方を学ばせた。	
		授業中の運動量の確保	児童が意欲的に体を動かすよう体育の授業を工夫し、十分な運動量を確保した。	

R5中間 教員アンケート

分類	番号	全教員	できた	おおむねできた	少しできた	できていない	肯定意見	否定意見
		項目	割合	割合	割合	割合	割合	割合
確かな学力	1-①	思考力・判断力・表現力の育成	20	40	40	0	60	40
	1-②	適切な時間での家庭学習	33	33	33	0	67	33
	1-③	伝統文化にふれる学習	30	40	30	0	70	30
	1-④	ICTを活用した学習	36	18	45	0	55	45
	1-⑤	読書習慣の確立	10	40	50	0	50	50
	1-⑥	外国語活動、外国語教育の推進	33	33	33	0	67	33
豊かな心	2-①	きまりや約束、規則の順守	36	55	9	0	91	9
	2-②	丁寧な言葉遣い	45	55	0	0	100	0
	2-③	いじめのない学校づくり	50	50	0	0	100	0
	2-④	年下への思いやり	27	36	36	0	64	36
	2-⑤	自他尊重精神の育成	11	67	22	0	78	22
	2-⑥	情報モラルの教育・啓発	0	56	44	0	56	44
身辺のし育い成心	3-①	外遊びの習慣化	0	45	55	0	45	55
	3-②	適切な食育	9	91	0	0	100	0
	3-③	授業中の運動量の確保	10	70	20	0	80	20



考察

・全体的に肯定的意見の割合が低く、消極的意見の割合が高い。特に「少しできた」と回答する割合が多かった。児童の評価項目が「あまりできていない」であるのに対して、教員の評価項目は「少しできた」であり、教員が否定評価ではなく肯定評価として捉えているのではないかとということが考えられる。今後、調査をする際は、評価項目をそろえていきたい。

・肯定的意見の割合が 9 割を超えている項目は、「きまりや約束、規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「いじめのない学校づくり」「適切な食育」の 4 つであった。その中でも、「丁寧な言葉遣い」「いじめのない学校づくり」「適切な食育」の 3 つは、肯定的意見の割合が 100%であり、全ての教員が達成感を感じていることが分かった。「きまりや約束、規則の順守」についても 91%の教員が肯定的に回答しており、高い達成感を感じていることがうかがえる。「授業中の運動量の確保」については 80%の教員が肯定評価を、「自他尊重の精神の育成」については 78%の教員が肯定評価をしており、これらの教育活動においても、教員は概ね達成したと感じている。後半の教育活動においても、これらの項目について引き続き取組の充実を図っていきたい。

分類	番号	全教員	肯定意見 (%)	消極意見 (%)
		項目		
確かな学力	1-①	思考力・判断力・表現力の育成	60	40
	1-②	適切な時間での家庭学習	67	33
	1-③	伝統文化にふれる学習	70	30
	1-④	ICTを活用した学習	55	45
	1-⑤	読書習慣の確立	50	50
	1-⑥	外国語活動、外国語教育の推進	67	33
豊かな心	2-①	きまりや約束、規則の順守	91	9
	2-②	丁寧な言葉遣い	100	0
	2-③	いじめのない学校づくり	100	0
	2-④	年下への思いやり	64	36
	2-⑤	自他尊重精神の育成	78	22
	2-⑥	情報モラルの教育・啓発	56	44
身の育い 成心	3-①	外遊びの習慣化	45	55
	3-②	適切な食育	100	0
	3-③	授業中の運動量の確保	80	20

肯定的意見の割合が85以上

消極的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90～100

肯定的意見の割合が80以上

消極的意見の割合が41以上

消極的意見の割合が31～40

消極的意見の割合が21～30

・消極的意見の割合が高く、達成率が 7 割に満たなかったものは、「思考力・判断力・表現力の育成」「適切な時間での家庭学習」「ICT を活用した学習」「読書習慣の確立」「外国語活動、外国語教育の推進」「年下への思いやり」「情報モラルの教育・啓発」「外遊びの習慣化」の 8 項目である。その内、「読書習慣の確立」「外遊びの習慣化」の 2 項目は 5 割を超える教員が消極的評価をしている。いずれの項目も児童の評価も低く、関連性が見られることから、後半の教育活動において改善を図っていかねばならないと考える。「思考力・判断力・表現力の育成」「ICT を活用した学習」「情報モラルの教育・啓発」については、4 割以上の教員が消極的評価をしている。これらの項目については、児童の達成率はそれほど悪くないことから、教員は自身の教育活動について、児童よりも厳しく評価していることがうかがえる。後半の教育活動においてさらなる充実を目指し、達成率の向上を図っていきたい。「適切な時間での家庭学習」「外国語活動、外国語教育の推進」「年下への思いやり」については、3 割を超える教員が消極的評価をしている。「外国語活動、外国語教育の推進」「年下への思いやり」の 2 項目については、児童の達成率はそれほど悪くないことから、教員が自身の教育活動について、児童よりも厳しく評価していることがうかがえ、喫緊の課題と捉える必要はないように思われる。しかし、「適切な時間での家庭学習」については、児童、教員ともに評価が低く、後半の教育活動において改善を図らなければならない項目である。家庭学習の習慣を身に付けておくことは、児童が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことであり、その点を保護者にも理解してもらう必要がある。後半の教育活動において、個人懇談や学級通信等で家庭への啓発を強化していききたい。

・児童と教員の肯定意見の意識比較で、10 ポイント以上の乖離が見られた項目は、「表現力の育成」「外国語活動・外国語教育の推進」「丁寧な言葉遣い」「いじめを許さない態度」「年下への思いやり」「適切な食習慣」「授業中の運動量の確保」の 7 項目であった。また、20 ポイント以上の乖離が見られた項目は、「思考力・判断力の育成」「ICT を活用した学習の推進」「情報モラル教育」「外遊びの習慣化」の 4 項目であった。10 ポイント以上の乖離が見られた項目のうち「丁寧な言葉遣い」「いじめを許さない態度」「適切な食習慣」の 3 項目は児童よりも教員の方が高評価だった項目であり、それぞれ 13 から 17 ポイントの乖離が見られる。教員は、3 項目とも肯定意見の割合が 100%と高い達成感を感じているが、児童は高評価ではあるものの、教員ほどの達成感を持っていないということが明らかになった。生徒指導上の課題である「丁寧な言葉遣い」「いじめを許さない態度」については、より一層きめ細かな指導をしていきたい。「表現力の育成」「外国語活動・外国語教育の推進」「年下への思いやり」「授業中の運動量の確保」

R5中間 児童 教員の肯定意見の意識比較

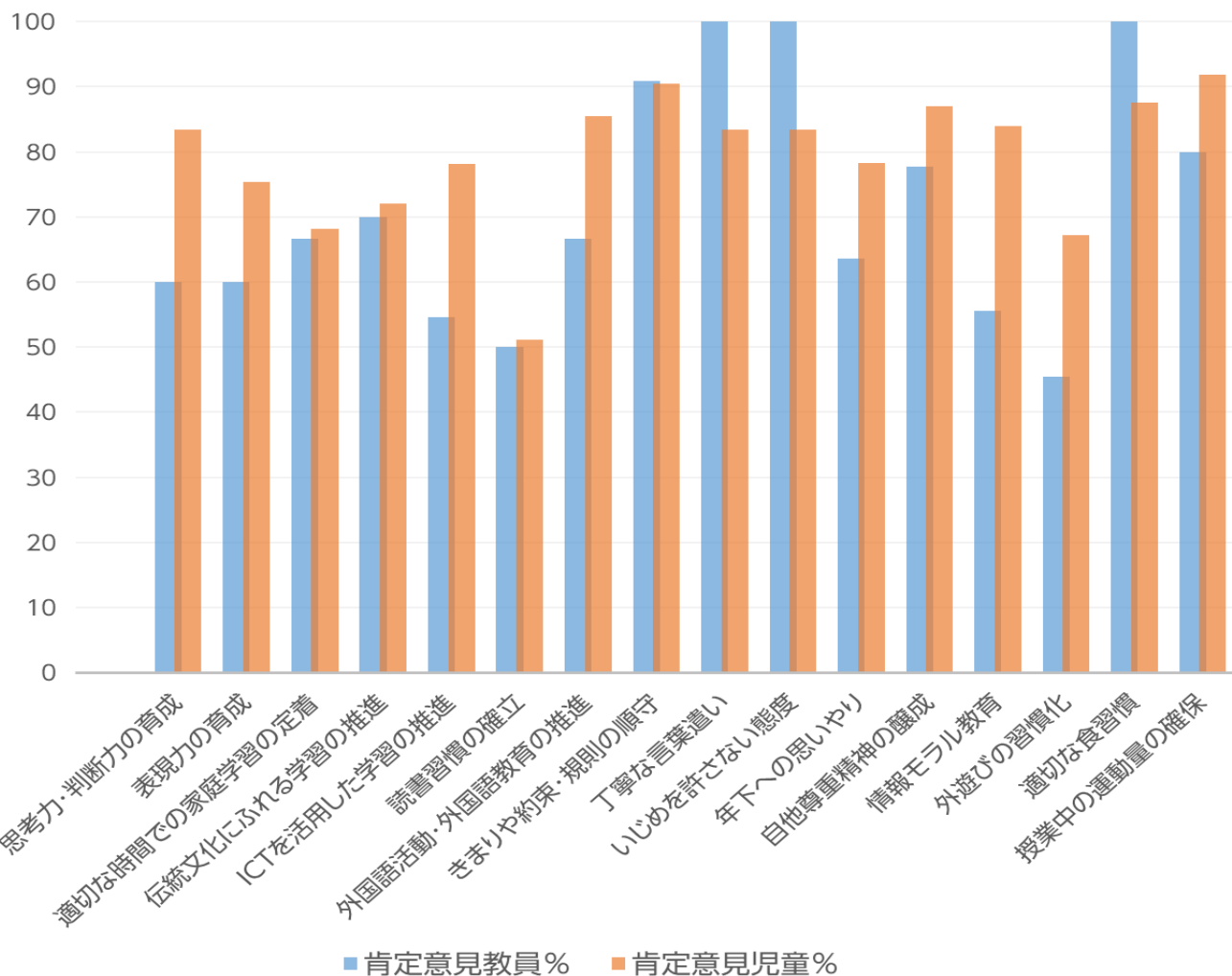
分類	番号	項目	肯定意見 教員%	肯定意見 児童%
学 習	1-①	思考力・判断力の育成	60	83
	1-②	表現力の育成	60	75
	1-③	適切な時間での家庭学習の定着	67	68
	1-④	伝統文化にふれる学習の推進	70	72
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	55	78
	1-⑥	読書習慣の確立	50	51
	1-⑦	外国語活動・外国語教育の推進	67	86
生 活	2-①	きまりや約束・規則の順守	91	91
	2-②	丁寧な言葉遣い	100	83
	2-③	いじめを許さない態度	100	83
	2-④	年下への思いやり	64	78
	2-⑤	自他尊重精神の醸成	78	87
	2-⑥	情報モラル教育	56	84
安 健 全 康	3-①	外遊びの習慣化	45	67
	3-②	適切な食習慣	100	88
	3-③	授業中の運動量の確保	80	92

評価に10ポイント以上の乖離が見られる項目

評価に20ポイント以上の乖離が見られる項目

の4項目は、教員よりも児童の方が高評価だった項目である。4項目とも児童の評価は低くはなく、「外国語活動・外国語教育の推進」は86%が肯定評価しており、「授業中の運動量の確保」は92%が肯定評価をしている。同じく、20ポイント以上の乖離が見られた「思考力・判断力の育成」「ICTを活用した学習の推進」「情報モラル教育」についても児童の評価は低

R5中間 児童 教員の肯定意見の意識比較



くなく、8 割近くか 8 割以上の肯定評価をしている。乖離状態が見られた原因の 1 つとして、児童の評価項目が「あまりできていない」であるのに対して、教員の評価項目は「少しできた」であり、教員が否定評価ではなく肯定評価として捉えているのではないかと考えられる。今後、調査をする際は、評価項目をそろえていきたい。「適切な時間での家庭学習の定着」「読書習慣の確立」「外遊びの習慣化」については、児童、教員ともに評価が低かった項目であり、早急に改善を図っていかねばならないと考える。